

かごしま 市民のひろば

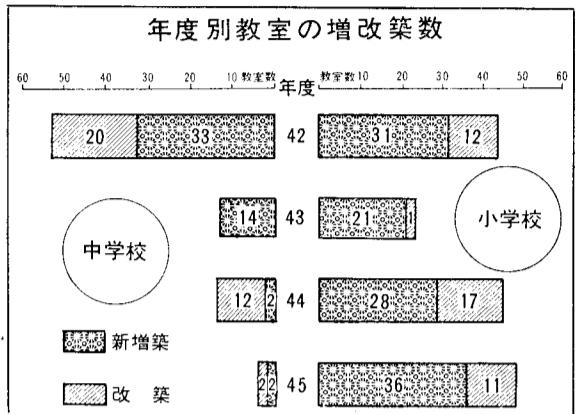
12/1
No.43

編集と発行 鹿児島市広報室

市政五本の柱

- ◎ 市民生活の環境整備
- ◎ こどもとお年寄りを大切にすること
- ◎ 市民性を高める教育文化の拡充
- ◎ 市民生活を豊かにする産業の振興
- ◎ 南九州の中心都市としての機能整備

鹿児島市の人口(推計) 405,146人(男190,243人 女214,903人) 124,188世帯(45.11.1現在)



全県的な過疎化の中にあって鹿児島市の人口は年ごとに増え続けていますが、その増加人口のほとんどは、大規模な住宅団地の開発と相まって谷山、宇宿、田上、紫原、吉野、伊敷などの郊外地区に吸収されつつあります。そのため、これらの地

区の小・中学校では児童生徒の増え方が著しく、いずれも教室不足の悩みに直面しています。市では、これに対処するため西紫原の三小学校を新設するとともに、校舎の増築にも積極的に取り組んできました。

川上小の用地も確保

一方、不足教室の解消とともに、校舎の改築も同時に進められています。川上小と天保山中の十三教室を改築する計画で、すでに各校とも建設工事にはいっています。

川上小の用地も確保

一方、不足教室の解消とともに、校舎の改築も同時に進められています。川上小と天保山中の十三教室を改築する計画で、すでに各校とも建設工事にはいっています。

プールは四校に建設

こどもたちの体力向上をめざして、屋内運動場やプールの建設も着々と進められています。

十二教室を鉄筋校舎に改築、これら校舎の新増改築に要した費用は五億五

千九百万円を越えました

本年度は二億二千六百

万円をかけ、東谷山・西

紫原・大明丘・伊敷・宇宿

小と紫原中に三十八教室

を増築、また名山・玉江

約二千五百平方メートル(約一

千九百万円)も、地域のみなさんの協力を得て確保しており、十二月に開かれる市議会に上程する予定です。

さらに城山団地内に移転を予定している草牟田小の用地(約一万九千平方メートル(約一億八千二百万円))も確保しました。

十二年以降四十四年まで

までの三年間に新增築し

た教室数は小中学校合わせて百二十九教室にのぼ

っています。

また、老朽化した木造

校舎の改築も同時に進め

ており、四十二年以降六

つています。

十二教室を鉄筋校舎に改

築、これら校舎の新増改

築に要した費用は五億五

千九百万円を越えました

本年度は二億二千六百

万円をかけ、東谷山・西

紫原・大明丘・伊敷・宇宿

小と紫原中に三十八教室

を増築、また名山・玉江

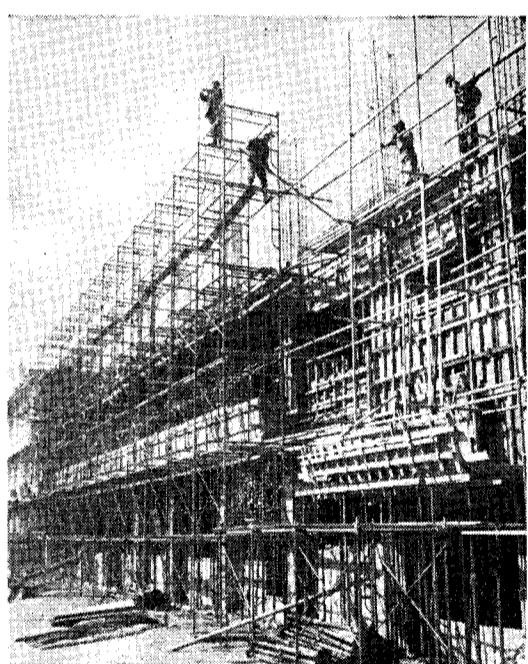
約二千五百平方メートル(約一

五十一教室を増改築用地を確保

「こどもたちを恵まれた教育環境のなかで、のびのびと育てたい」——これは、こどもを持つ親なら、誰もが願うことです。

市は、昭和四十二年以来「こどもを大切にする市政」を市政の五大目標の一つにかかげ、児童福祉の充実とともに、小・中学校の教育施設の整備充実についても全力を傾けてきました。

本年度も施設整備充実のための予算二億七千万円を計上、五十一教室にのぼる校舎の増改築をはじめ、屋内運動場やプールの建設、学校用地の取得などに積極的に取り組んでいます。



(急ピッチで進められる西紫原小の増築工事)

着々進む教育施設の整備

市民のひろば

MBCテレビ

毎週日曜日 午前9時45分から
(再放送…毎週木曜日
午後4時から)

■市政やそのときどきの話題を市民のみなさんと話し合う番組です
■この番組に対するご意見、ご要望がありましたら、市役所広報室広報係までお寄せください。

12月

- 6日…年末年始の食品衛生
- 13日…冬の青少年を守る運動
- 20日…この1年の市政を振りかえって
- 27日…今年の市政ハイライト

1月

- 3日…新年を迎えて

市長隨想 (37)

交通事故未だ利雄

私は一日の仕事を終えて家まで送つてもらつたときは公用車であれタクシーであれ、必ずといってよいほど、運転者に「ケガをしなさんな」と声をかけて別れることになっています。たまに息子の車に乗ることもありますが、息子の運転技術に信頼がおけないので「スピードを出してくれるな」といいつけるのです。

タクシーなどに乗った場合、多少不安があつても、その運転者に注意がましいことはいえないのですが、年取った運転手でタクシーを拾おうとするときなどは、年取った運転手の車であればよいがと思うのです。すべてがそうであるとはいえないが、若い人の運転は少なくとも安全運転とはいはず、まるで荷物でも運んでいるような粗暴な走り方をする運転手が多いからです。

スピード…それは近代人が求めてやまないものかも知れません。しかし、スピードがゼロである場合に事故の起り得るはずがないことを考えるとき、事故の基本的な原因は動くもののスピードにあるよう思うのですが、スピードをゼロに近づけることを考えるのは、時代逆行というものでしようか。

それからのちも毎日、救急車のあのピーポサイレンの音を聞く日はないのですが、これでよいのかと何か責めたてられているような気がしてならないのです。交通事故の原因はかれこれいわれていますが、つまるところ運転者のちょっとした不注意、一瞬の迷いにその原因があるようです。

私は一日の仕事を終えて家まで送つてもらつたときは公用車であれタクシーであれ、必ずといってよいほど、運転者に「ケガをしなさんな」と声をかけて別れることになっています。たまに息子の車に乗ることもありますが、息子の運転技術に信頼がおけないので「スピードを出してくれるな」といいつけるのです。

タクシーなどに乗った場合、多少不安があつても、その運転者に注意がましいことはいえないのですが、年取った運転手でタクシーを拾おうとするときなどは、年取った運転手の車であればよいがと思うのです。すべてがそうであるとはいえないが、若い人の運転は少なくとも安全運転とはいはず、まるで荷物でも運んでいるような粗暴な走り方をする運転手が多いからです。

スピード…それは近代人が求めてやまないものかも知れません。しかし、スピードがゼロである場合に事故の起り得るはずがないことを考えるとき、事故の基本的な原因は動くもののスピードにあるよう思うのですが、スピードをゼロに近づけることを考えるのは、時代逆行

